

第5回石脇イベント

都市地域計画ゼミ 竹取物語 ～今年度は竹の調達から～

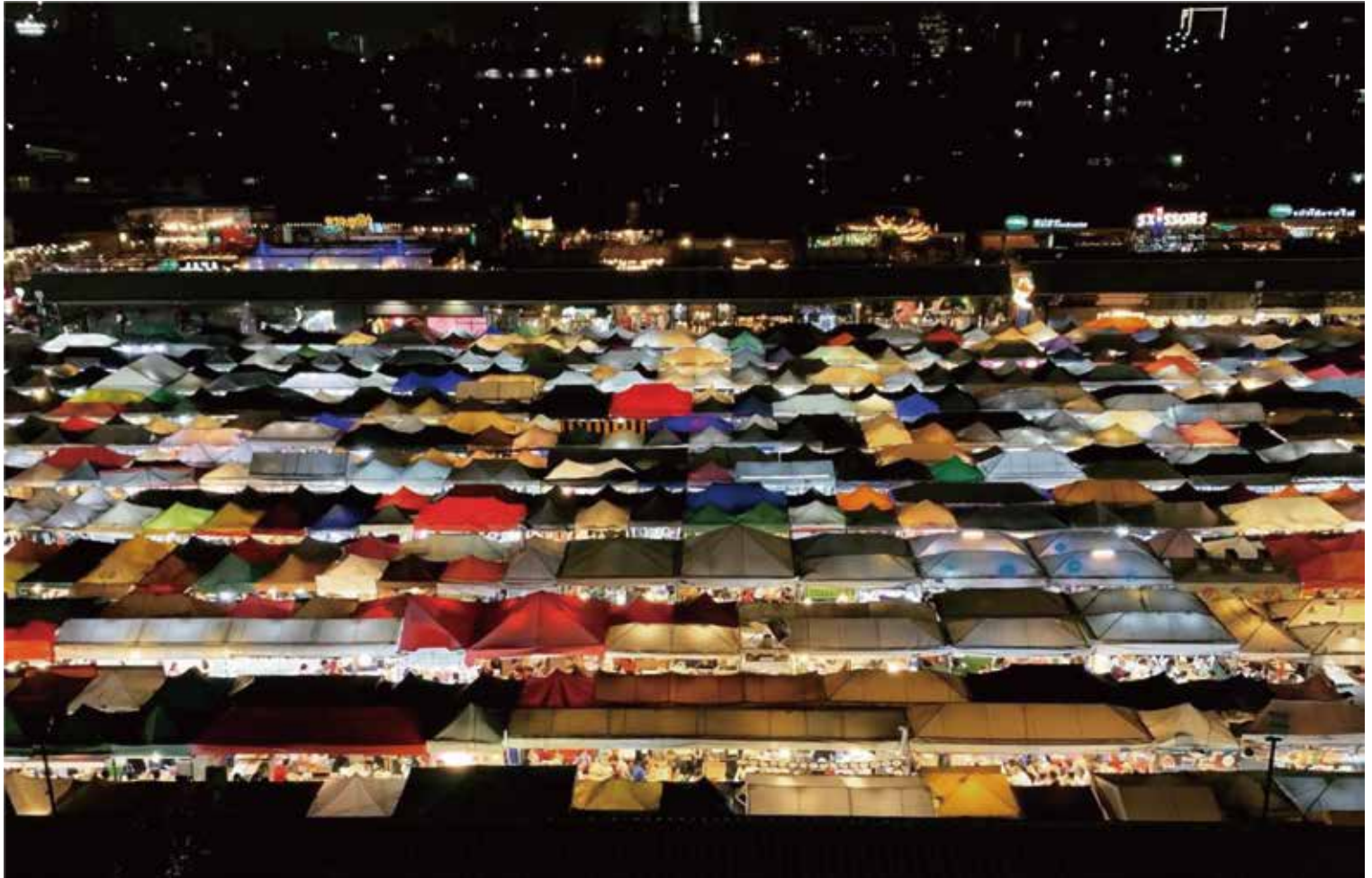
-contents-

- 2.巻頭言
- 3.ゼミ内教員・学生の活動
- 4.5. 石脇通りのイベント
- 6.2019年度建築学研修
- 7.創造工房地域学習、3年生紹介、研究室整理
- 8.OB・OG紹介、羽後本荘駅舎改修、ゼミ生旅行記

No.05
2019.10

URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.



芸術：内なる自分との対話

●大駱駝艦（ダイラクダカン）

大駱駝艦による『罪と罰』なる舞台を観てきた。知人に言わせると、「全身白塗りのおじさんがクネクネするという認識です。」とのこと。

男性は、丸坊主で白塗り。固有名詞性を排しているのだろう。舞台前方には大きな懐中時計が吊り下げられ、振り子のように左右にゆっくりと動いている。時間の流れを表しているのか。中央の円形壇には大きなオブジェが3つ立ち、壇がゆっくり廻り、オブジェの前に並んだ白塗り男たちはマイケルジャクソンの斜め立ちのような非人間的な動きを繰り返している。もちろん言葉はなく、重要と思われるシーンでは奇声が発せられるのみである。具体性を排しているのだろう。

こうした環境の中で、複数の物語のように思えるものが同時進行していくのだ。人間の具体意味性を排した動き（ダンス？）は、人間の普遍性を表しているのか、はたまた、人間を抽象的に要素分解しつつ再構成して意味性を発信しているのか。悲しみなのか、迷いなのか。死なのか、輪廻なのか。メッセージの意味は、観覧者自身の中に生まれ、それこそが観覧者の内なる心の反映なのだろう。

ダンスと演劇の境界あたりの作品で、安易な解釈を拒み、それ故に観客の内面へ迫ってくるものがある。

●牛の前に立つ若者

学生の頃、東京藝大の卒業制作展を観に行ったことがある。一番印象に残った作品は、牛の前で麦わら帽子を被り、サイレージホークを持つ青年を描いた油絵だった。

ほかに気のきいた作品は幾つもある、技巧的に感嘆してしまう作品もある。なのに、何故、牛の前の青年の絵に自分は惹かれたのだろうか？そして、何故、彼は卒業制作にこれを描いたのだろうか？

絵の前で5分ほど立っていると、彼は、きっと、自分にとって一番大切なもの、それを深く考えたのであろうとの思いがよぎる。そして、故郷での自分の生活そのものの中に、それを見出したのではないかと。

そこまできて、何故、私がこの作品に心惹かれたかも氷解した。

●芸術なるものを観ること

「世に傑作と呼ばれるものは、私たちの裡にある最も妙なる心の琴線に合わせて奏でられた交響楽なのであります。」「つまり名人は、私たちの意識にない調べを呼び覚ましてくれるのです。」「芸術では、作品とその作品を観る者との間に、そのような精神の結びつきが生まれるときを、最も神聖視いたします。」「『The Book of Tea』TENSIN Okakura, ソートン・F・直子訳, 第5章 芸術の鑑賞, 海南書房 1969 より

心を空しゅうして観れば、少しは岡倉天心に近づけるかな。

山口 邦雄（やまぐち くにお）
都市・建築計画学研究グループ

「秋」

「秋は収穫の季節である」、「金秋の十月」などの文章は、中国人の小学生たちは「秋」をテーマにされた作文にほぼ全員が書いたことがあります。もちろん私は小学生の時にもその文章を書きました。テレビや本で秋に金色になった稲や小麦を機械で収穫する情熱のある場面の描写を見たことがあります。正直に言いますと、都会育ちの私は、「秋の収穫」という感動は心から生まれたことはありませんでした。むしろ爽やかな空気、より高く見える青空、シカモアの木のパリパリとなった落ち葉、家のテーブルの上に彩りの果物たちは自分なりの秋風景でした。

金色の季節であり、収穫の季節であるという秋の本物を感じたのは日本に来てからでした。初めて日本に来たのはちょうど10年前の初秋でした。大学へ行く道の一つは田んぼを通る道でした。ちょっと遠回りになりますが、稲穂はこんなに身近にあるのは人生初の経験なので、毎日興味津々に田んぼを通って大学を通いました。稲穂はどんどん重そうになり、色も濃くなってきたのを確実に感じて、稲刈りの様子を見るのも楽しんでいました。田んぼを通る時に、自分はまるで妙な小説の主人公になったような瞬間もありました（笑）。

小説であれば、主人公はこんなにロマンチックな日々をずっと送れば、絶対売れない小説になると思わないでしょうか。私の生活も小説が展開すべく方向に向けて展開されました。日本に来てから1ヶ月未満のある日の夕方、自転車に乗っている私が車にひかれてしまい、鎖骨が骨折しました。自転車は乗れなくなり、しばらくバスに乗って大学へ通いました。自転車が乗れるようになったのは事故の1ヶ月後になりました。稲刈りが終わった田んぼを見て、自分が初めて収穫した金色の秋が誰かに奪い取れたと感じました。折れた骨がすごく痛い時にも感じられなかった寂しさはその時に心から生まれました。ようやく「秋は収穫の季節である」、「金秋の十月」という文章を心から言えるようになったのに、「秋」を作文する機会もうありません。

最近、梨と柿と栗とをよく食べました。確かに秋は金色でしょうねと思いながら、「秋」をテーマにする作文の機会を作りました。くだらない話なのですが、時間潰しに読んでいただければと思います。



李 雪（り せつ）
都市・建築計画学研究グループ

ゼミ内教員・学生の活動

☆表紙の写真 by 鎌田将輝

『タラートロットチャイ・ラチャダー』（バンコク）ショッピングモールの駐車場より撮影。
ナイトマーケットとして色とりどりの屋台がひしめき合っている。

建築施工 土壁塗り体験

李 雪 助教

本学の建築学科の教育は先端技術を重視する傾向が見られます。そろそろ就職活動を始める三年生に、建築業界では多くの業種（特に伝統的な建設技術に関連する業種）があることを伝えるため、材料講座の大塚亜希子先生のご提案で、3年生の必修科目「建築施工」の一環として土壁塗り体験を行うことになりました。

日本全国で土蔵修復に活躍し、且つ、土壁の文化と魅力を若者に伝えるのにも熱心な左官職人の小林隆男さんを特別講師として招へいしました。6月24日、朝8時から夕方までにかけて、学生たちは特別実験棟の外で小舞掻き、塗り土の準備、土壁塗りの一連作業工程の体験ができたと思います。職人さんの腕を感嘆しながら、手作業の難しさも感じたと思います。講義当日の参加者には、受講生の3年生以外に興味のある4年生の姿もみられました。

ここで特筆したいのは、土壁塗りに必要となる「壁枠」も学生の手作りのものでした。特に壁枠に用いられた竹は材料講座の板垣直行教授の指導を受けながら、都市・地域計画ゼミの学生が山から伐採してきたものでした。

（小舞掻き：土壁をつけるための下地となる竹を格子状に編む作業）



建築学会大会 2019 in 金沢

山口 邦雄 教授

今期の建築学会大会は、加賀百万石の城下町・金沢で開催された。初日の第一セッションでの発表と第二セッションの司会ということで自身の役割は効率よく果たし、都市計画の会場に参加した以外は、建築と街の視察に時間を割いた。

鈴木大拙館では「思索」空間をつくりあげる建築家の妙に感銘を受け、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館では「清らかな意匠」を主題とする谷口吉郎の作風に共感を覚えた。設計は、ともに谷口吉生の手による。また、市街地郊外に立地する Share 金沢（3.6ha）は、障がい者だけではなく健常者、若者、高齢者も分け隔てなく一緒に暮らせる街を創るというコンセプトを追求しており、これまでの単機能型の福祉施設から大きく発展していた。まさに「共生」の街の実現である。

暑い金沢の夜は、昨年まで本ゼミで一緒だった尹先生（横国大）、修了生小島さん（財・計量計画研究所）の3人で喉を潤した。



初夏合宿 in 横手

2019年5/25、26に初夏合宿が行われた。今年度は秋田県横手市を中心に、建築学研修やゆかたイベントに向けた進捗報告、ゲストハウスへの宿泊、重伝建地区の散策等を行った。

1日目、横手市の十文字文化センターにて研修の進捗報告を行い、宿泊場所の「カモシバ」に伺った。「カモシバ」ではオーナーの方に、Uターンから開店までの経緯を聞かせていただき、宿に併設されるバーで美味しい夕食をいただいた。当日は外国の方も宿泊されており、ゲストハウスならではの交流も味わうことができた。2日目、前日に引き続き研修報告、ゆかたイベントのゼミ企画の案出しを行い、その後横手市増田町に向かい昼食、町歩きを行った。増田町は、母屋で覆われた「内蔵」と呼ばれる豪華な土蔵を構えた商家が40以上軒を連ねており、国の重伝建地区に選ばれている。ここでは、蔵を改装した食堂「くらを」で麴を使った昼食をいただき、まちの駅「福蔵」では内蔵見学や蔵の町増田の歴史について教えていただいた。

この2日間、研修やゆかたイベントに対し集中して考えたとともに、実際にまちづくりに関わる方や場所に行き話を聞いたことで学ぶことができ、非常に有意義な合宿となった。

（合宿担当 岡野美月）



- 1 「福蔵」内蔵見学
- 2 増田地区の街並み
- 3 ゼミ生集合写真
- 4 オーナー阿部さんにインタ

～竹取物語～

その一

「竹の調達」

我々のゼミでは、毎年石脇の浴衣祭りでは竹を使ったインスタレーションと呼ばれる空間演出を行っており、今年度も石脇公徳館側の村井さんのガレージをお借りしてインスタレーションを行いました。

今年度は使用する竹を購入するのではなく、石脇にある竹林から竹を調達する許可を頂いたため、本荘海岸林を守る会の富樫さんと、本学材料学研究室の板垣先生にご協力を頂き、ゼミの活動として竹の伐採を行いました。

石脇の竹林は幹の太いものから細いものまで生い茂っており、我々は幹の太いものを選別して伐採をしました。竹を切る作業は鋸で切る人や支える人など分担をしながら行いました。切られた竹が倒れる様子は非常に迫力があり、切り揃えられた竹が積み込まれた軽トラを見たときは大きな達成感を味わうことができました。

(4年 菅原卓矢)



その二 「加工」

例年、夏休みに本荘石脇地区で行われる「浴衣で歩こう」というイベントに私たちのゼミも参加し、インスタレーションの作成を行いました。

ゼミ生の提案から石脇の竹を利用してインスタレーションを作成しました。山口先生とゼミ生のアイデアのもと調達した竹を加工し、自分達が納得のいくインスタレーションを作成することができ、とても良い達成感を得ることができました。

インスタレーション作成に協力していただいた皆様、誠にありがとうございました。

(4年 鎌田将輝)

その三

「完成作品」

今回のインスタレーションでは、前回の作品のバージョンアップをしようということで、山口先生とゼミ生の案により、立体的に見せるため、高さのあるオブジェや新しく制作した竹飾り、スリットを活かした竹あかりを用いて空間演出を行いました。

当日は多くの地域の方に、「綺麗だね」と声をもらったり、写真を撮って下さったりし、喜んで頂けて本当に嬉しく思いました。大変ではありましたが、とても達成感があり、素敵な一夜となりました。

(4年 小林紗菜)





今年度はインスタレーションの企画や材料の調達、当日の会場設営など広く任せていただいたことで、ゼミの一員として、町の一員として役割を果たすことが出来たかなと思います。浴衣祭りは今年度で5回目であり、恒例行事として馴染んできた反面、浴衣以外の参加者も多く見られ、本イベントの特徴である「浴衣で歩く」という点が薄れてきているように感じました。「浴衣で歩く」ということに改めて重点を置いて考える必要があるのかなと思います。

(4年 菅原卓矢)



参加した地元住民が石脇という街の魅力を改めて感じる事ができたイベントであったと感じた。このようなイベントを行うことによって、参加した若者が地元で過ごした思い出を形成することができ、将来地元を離れて浴衣を着る際、この祭りでの思い出や故郷を思い出し、帰ってみようというきっかけづくりにもなると思う。

(3年 上神田純哉)

今年初めて参加したが、祭りの賑わいに驚いた。私は本庄うどんの提供の手伝いをさせて頂き、地域の人達と交流することができた。先輩方のインスタレーションも祭りの雰囲気をより引き立たせていると感じた。最後に、浴衣を着て参加することで、祭りの趣旨や楽しさを深く実感できたと感じた。

(3年 佐藤桂一)

田屋 リニューアル！！

浴衣祭りの会場でもある石脇通りに、雪の茅舎でおなじみの齋彌酒造が所有する古民家をリノベーションしたカフェとショップが併設した『発酵小屋・田屋』がオープンいたしました。

秋田県では名産の発酵食品をより広めるために「あきた発酵ツーリズム」という活動を行っており、この施設を活動の発信拠点と位置付けています。

ショップスペースでは齋彌酒造のお酒や、酒粕を使った漬物などを買うことができます。カフェでは塩麴を使ったローストチキンをはじめとする発酵食品を使用した料理が頂けます。

浴衣祭りやこの建物から古い町並みを見直す機会が広がれば、より良い街になるのではと感じました。

(N.L編集担当)



2019 年度建築学研修

住民による提案書から始動した公共施設整備プロセスに関する研修

—秋田市新屋表町における新屋ガラス工房を事例として—

岡野 美月

本研修では、市民参加のみられる施設整備過程の分析を目的として、秋田市新屋ガラス工房の事例を対象とし、ヒアリング調査や文献調査及び整理を行いました。その結果以下のことが明らかになりました。

新屋ガラス工房は住民団体の提案に対する市の助言から住民間での議論が発展し、事業の骨格となる提案書の作成に至った。

この要因となったのは、①会の発足や議論の場への継続的な参加等の住民団体の取り組み、②住民団体への市の支援活動、③住民と市のまちづくりの方向性の一致でした。

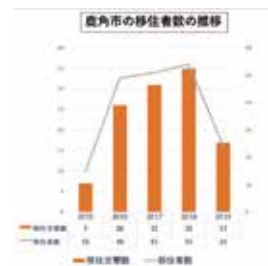


秋田県鹿角市の移住促進事業に関する分析

鎌田 将輝

本研修では、秋田県が2014年から総合的な人口問題対策に取り組んでいることから、移住定住促進の分野について関心が高まりました。そのため、秋田県内の移住・定住促進事業数及び鹿角市の移住促進事業の取り組みの把握を目的として、鹿角市の移住促進事業の実績の分析、鹿角市や移住促進を目的としているNPO法人へのヒアリング調査等を行いました。その結果として以下のことが明らかになりました。

- ・秋田県内では人口減少に対する各自治体の取り組みに意図の違いがある。
- ・鹿角市では市役所内の人員限られおり、地域おこし協力隊や民間団体の協力が必要。
- ・鹿角市の行なった移住相談、体験、費用補助は移住希望者の不安を解消する事業であり、それらが移住者の増加の要因だと考えられる。



防火建築帯と防災建築街区の利用用途変化の調査

—富士駅北口周辺地区のケーススタディから—

小林 紗菜

本研修では、過去に防火建築帯と防災建築街区の造成がなされた、富士駅北口周辺地区を一つのケーススタディ地区として取り上げ、現地調査や文献調査、住宅地図による分析、ヒアリング調査を行い、防火建築帯と防災建築街区の建築特徴や利用用途変化を明らかにすることを目的としました。

本調査から、富士駅北口周辺地区の防火建築帯と防災建築街区は、利用用途変化に大きな違いはありませんでした。しかし、防火建築帯は上部階へのアクセス方法が一階内部型のため、1階部分の他者による利活用がしにくいことがわかりました。このことから今後は貸すことのできない現状に対する有効活用等のリノベーションまちづくり構想や、商店街の集客となる施設の整備が必要であると思われます。



線引き広域都市計画区域に含まれる地方都市の対応に関する基礎調査及び考察

—秋田県潟上市のケーススタディから—

菅原 卓矢

本調査では、潟上市の人口動向の調査と勉強会の議事録の分析から潟上市、秋田市、秋田県のそれぞれの立場から本問題の対応策の考え方を考察し、市町村の個の問題と広域の問題の都市計画上での整合性を検討していくことを目的としました。その結果として、以下のことが明らかになりました。

- ①立場の違いなどによって課題認識の軽重が異なるため、広域調整は困難である。
 - ②個と広域を両立する対応策はあるが国の一律性による都市計画の方針が妨げとなる。
- これらから、多様化する地方都市の問題に適合した制度や柔軟な対応を可能にするための国の都市計画の方針の必要性が考えられます。



創造工房の地域学習

建築学科

Information

7月27～29日の3日間で、夏休み子ども科学教室「創造学習」が開催されました。本イベントはキャンパスで大学の先生から科学をテーマとした講座を受けるものです。17テーマが開講され、160名と大勢の方々にご参加いただきました。特に、建築学科では助教の先生方とボランティア学生の多大なご協力のもと、オリジナリティ溢れる6講座を開講することができました。これらの講座は大変人気が高く、事後アンケートからも参加者の満足度も高いものであることが伺えます。



「創造学習」は、地域の小・中学生の大学での学びの機会を提供する貴重な機会です。参加者とその保護者が実際に学内に入り最新鋭の設備を目の当たりにし、大学教員や学生と触れ合うことで、本学を身近な「学び舎」として感じただけの機会であるとともに、地域に対する大学のプレゼンス向上に大きく貢献できたのではないかと感じています。

(材料学講座 大塚亜希子 助教)

研究室 304,305 模様替え

今まで院生が主に使用していた、研究室304,305があまり使用されなくなったため、大規模に整理・模様替えをし、新しくなりました。

今後は主に3年生が使用したり、休憩や談話のスペースとして活用していきます。

before

(N.L 編集担当)



after

3年生の紹介

- ①出身地→自慢
- ②好きな建築 or 街並み
- ③意気込み一言！



上神田 純哉

- ①岩手県矢巾町
→自然と歴史を感じれる町
- ② 銀山温泉の街並み
- ③ 何事にも進んで取り組んでいきたいです。



佐藤 桂一

- ① 青森県平川市
→自然がいっぱいでどか
- ② 青森県立美術館
クライストチャーチ大聖堂
- ③ 歴史的建造物の保全活動について学びたい。



関根 萌

- ① 新潟県長岡市
→夏の風物詩 長岡花火
- ② 根津美術館
- ③ 楽しく頑張りたいです！



樋口 真由

- ① 山梨県中央市
→とまチュウというトマトの妖精がいます！
- ② ディズニーリゾート
- ③ ゼミマニュアル熟読します！

Welcome!!

OB・OG 紹介

今回は(株)北洲にお勤め、16期生の戸嶋大輔さんです!



皆様こんにちは。16期生の戸嶋大輔と申します。皆様に社内外の活動報告をさせて頂くチャンスだと思いますので、ご感想・アドバイス等のバック頂けると嬉しく思います!

私は普段、工務店やハウスメーカーに資材を売る営業として働いております。地場工務店は衰退傾向、ハウスメーカーは低価格競争が激しい中、儲かるの?と思うかもしれません。しかし、弊社は他の建材店とは異なり、独自の価値ある商品があります。抜粋すると①傷汚れに強く、施工性に優れるペルゴフロア、②高齢社会を見据えた、平屋賃貸住宅スパーク。「次世代のスタンダードを切り開く」という理念のもと、これらの商品を販売できることに誇りをもち、日々仕事に励んでいます。

一方、社外では、岩手県花巻市を舞台に開催されたリノベーションスクールをきっかけに、同市のエリアリノベーション活動に注力しています。対象物件・エリア調査から、まち文化の復活や周辺エリアへの波及効果、収支計画を踏まえ、事業実現に向け本気で取り組んでいます。

このフローを理解し、将来的には、自身が中心となったプロジェクトを組み、地域活性化に微小なりとも貢献できる力をつけたいと思います。



写真コンテスト 佳作作品



「いがわ小径」
by 山口邦雄

「水」が街の風景に溶け込んだ情緒ある場所。共同洗い場が住民によって自主管理されている。(岐阜県郡上八幡市)



「金具屋」
by 小林紗菜

長野県の湯田中渋温泉郷にある木造4階建ての老舗旅館です。ジブリ映画「千と千尋の神隠し」のモデルの一つだとか。(長野県下高井郡山ノ内町)



「ショップ
ハウス」
by 上神田純哉

「狭く細長い家屋形式」としてプラナカン様式建築が残る住居群。実際に住宅として使用されている。(シンガポール)

羽後本荘駅舎改修

由利本荘市の顔である「羽後本荘駅」は現在建て替え工事を行っています。現在線路で分断されている東西の往来を円滑にするため、自由通路を新設し、橋上駅舎となる模様。また、東口の広場新設や道路の整備など一体的に整備し、利便性の向上が期待できる。

新駅舎の完成は2021年の春ごろの予定。完成が楽しみです。

(N.L 編集担当)

完成予想図▶



ゼミ生旅行記

私は夏休みに2泊3日のタイ・バンコク旅行に行きました。

「ワットポー」「ワットアルン」と言った、タイの歴史的寺院を観光することに加え、現地の方の生活を見たり、現地の方との交流を楽しむことができました。

タイの首都であるバンコクでは、登校中の子供達ですれ違う地元住民に立ち止まって挨拶をする姿がとても印象的でした。

(4年 鎌田将輝)



～編集後記～

多くの皆様のご協力により、無事に22号目を発行することができました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

時が経つのは早く、今号で私たち4年生のN.L編集は最後となりました。大変な所もありましたが、とても良い経験ができたと感じております。次回からは3年生が主体です。これからも、N.Lのご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。

<2019.10. N.L 編集部> 菅原卓矢 小林紗菜 斎藤連 山口邦雄

URPS 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎: 0184-27-2053 e-mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄